

NEW

浮流星

第17号

発行:2014.08.15
編集: SUNAK FILM
発行 MAKER

SUNAK FILM MAKER Eメール: sunak_film@hotmail.co.jp



震災遺構 「たろう観光ホテル」岩手県宮古市田老地区 2014.6.24撮影

田老観光ホテルが建つ宮古市田老地区は、1896年（明治津波）1933年（昭和津波）そして今回2011年（東日本大震災）と、100年余で3度も津波が襲い壊滅的な被害を受けた地区。津波は高さ5mはある防潮堤を軽々と乗り越え、約800戸が流された。

ホテルはその堤防から約100mの所、津波の直撃で6階建ての3階まで壁がぶち抜かれ、赤さびた鉄骨や内装がむき出しになっている。

また、ホテルのすぐ隣にプレハブ小屋があり、このホテルの社長である松本さんが、当時6階から撮った、津波の来る直前から街が破壊されるまでを撮影したビデオ（このビデオは、この場所ではしか観られない）を上映している。

2014年3月に初の震災遺構として登録され、現在は宮古市所有。

仮設商店街

「たろちゃんハウス」

岩手県宮古市田老地区



宮古市田老地区の中心部は、東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受け、その仮設住宅を、元国民年金保養施設“グリーンピア三陸みやこ”の敷地内に407戸を建てられ、約1000人が生活することになった。

しかし、周辺には以前より商店街がなく、仮設住宅に移ってからの買い物の利便を図ることと、被災した商店の再建を図るため、“田老スタンプ会”が中心となり、2011年5月15日に仮設共同店舗「たろちゃんテント」がオープンした。

“グリーンピア三陸みやこ”の駐車場に10m四方のテント二張り、17店舗が出店し、その後、2011年9月8日に仮設共同店舗は完成し、9月25日に、仮設商店街「たろちゃんハウス」としてオープンし、現在に至っている。

「田老地区仮設住宅」407戸

“グリーンピア三陸みやこ”の入口の右手下に広がる仮設住宅の屋根は、一見、太陽光発電パネルのようだった。

この状況を知らなかった私は、太陽光発電の基地かと思ってしまった。下に降りていき初めて仮設住宅であることが分かった。その数407戸、400世帯が住んでいた。



たくさんの住宅があるがきわめて静か、パラソルの下にいすを置き、くつろいでいる人たちに話を聞いた。



「たろちゃんハウスは、とても便利。震災から3年経って今の生活に慣れはしたけど、この先のことはどうなるか分からない」「仮設に入居した人の3分の1は退去したよ、結局お金の問題、お金がある人は他の地域に引っ越すが、そうでない人はこのまま... (400世帯から260世帯に減少)」「もう年だし、今を生きていくしかないし、元の生活には戻れないし帰れないし、また新たな環境で生活するのも大変だし、あまり考えたくない」「結局のところ、もう私たちのことは忘れられる運命だと思う。他人事でしか過ぎないかな～」

田老漁港 & たろう観光ホテル

仮設住宅を後にして、漁港へと向かった。高さ5m以上あると思われる防潮堤の水門だけが残ったが、ひび割れが生々しい。漁港周辺の約800戸が、津波に流された。

漁船の流出は、850隻に及ぶ、防潮堤内にあった住宅は引き波ですべてが流され、あたり一面草が生え、何も無い中に、たろう観光ホテルがぼつんと建っている。漁港では、壊れた堤防を再建するための工事が行われているが、防潮堤内の住宅地は手つかずのまま、その中で、たろう観光ホテルは、2014年3月に初の震災遺構として登録された。



山田漁港 & 陸中山田駅・山田漁港 岩手県山田町



国道45号線を挟み、東西それぞれ100mの所にある山田漁港と陸中山田駅、いずれも津波の爪痕は痛々しい。被災地はどこでも同じように、このあたりも一面、壊れたコンクリートの建物、鉄筋がむき出しのままになっている建物が3年を過ぎても当時のままだ。

山田漁港は港内のしゅん渫は、ある程度終了したが、漁船を陸揚げする場所や養殖いかだは被災したままになっている。港の壊れた堤防、護岸工事がこれから始まる様子、近くにはそれに使う大きな土台が準備されていた。

JR陸中山田駅は、1年前よりもさらに駅が存在が分からなくなっていた。ホームも線路もその跡も、痕跡は何も無い。バス停も移動し、駅前ロータリーの丸い跡だけが、わずかに残るだけだ。

「奇跡の一本松モニュメント & 道の駅」 陸前高田市

震災前の陸前高田の「千本松原」は、この一本だけが流されず残ったが、市民の懸命の努力にもかかわらず塩害で枯れてしまった。しかし、市民の要望により復興の希望のシンボルとして幹から枝、葉の一本まで忠実に再現されたモニュメントは、海岸近くの砂浜に堂々とそびえ立つ。そのそばに壊れたままの陸前高田ユースホステルは、無残な姿を見せていた。



この希望のかけ橋とは、陸前高田市の今泉地区に高台の住宅地を建設するための工事で掘削した土を運ぶためのベルトコンベ



私は40年程前に、このユースホステルに止まったことがある。松林の中にある静かなユースホステル、カヌー遊びのできるどころだったが、今はその思い出だけが残るだけだ。

また、国道沿いの「高田松原 道の駅」の再建は、今のところなく、希望のかけ橋の工事に用のトラックの駐車場になっていた。



アの専用つり橋で220mある。終わった後にこの橋がどうなるのか？ちょっと気になった。

その横に「夢ある未来に願いを込めて」の大きなかんばんと二つの堤防の間に松原を再現する建設図が描いてあった。ここでの復興工事は進んでいるようだが、ちょっと考えてしまった。

「旧大槌町役場」 大槌町

2011年3月11日の地震発生後、役場前で津波への対策を準備中に津波に襲われ、町長以下40人の職員の犠牲を出した大槌町役場は、その正面入り口前側の部分が震災遺構として残すことになり、後ろ半分を取り壊す工事が行われていた。



また、旅行会社による震災ボランティアツアーの人たちも、未だに多くの方が訪れ説明を聞き、その恐ろしさを感じ取っているようであった。



「気仙沼入里前商店街」 気仙沼市

R45号線沿いにある、入里前商店街は、仮設の店舗からなる商店街で、入里前小学校にある仮設住宅に隣接する。

ちょうど夏祭りに向けての実行委員会が行われていたようだ。祭りに使用する竜の大きな模型も準備済みだ。国道を挟んで海側に行ってみるとやはり津波の爪痕が残る。仮設商店街の店舗があるところは元住宅地であった。



「南三陸町防災庁舎」

岩手県南三陸町

青く澄み渡る空に、赤茶色の鉄骨の骨組みだけが残った元防災庁舎、津波により人も含めて全てが流された。カーナビが示すこの地は、周りに何も無い、だが赤茶色の鉄骨がすべてを物語る。この地に10メートルを超えた津波が押し寄せたことを！

あの日、その時間に何があったか、今でも耳に鳴り響く「津波が来ます。高台に避難してください」と、放送続けた女性職員の声、震災遺構として永遠に残すべき建物である。戦災遺構の広島原爆ドームのように、日本中、いや、世界中の人達が忘れない為に！



慰霊の社務所 「^{ゆりあげ} 閉上の記憶」

宮城県名取市閉上地区

5000人以上が住んでいた名取市閉上地区は、東日本大震災の津波によって、街は壊滅的な被害を受け、更地状態になった。

この地域の閉上中学校では14人の生徒が津波





の犠牲になり、1年後の2012年3月11日に関上中学校遺族会は中学校の敷地内に、慰霊碑を建立した。

「関上の記憶」は、NPO法人等が協力して、中学校近くにプレハブ小屋を建て、慰霊碑を守る社務所として、また関上の人たちが集まれる場所として、また震災を伝える場所として存在している。

この地区は、盛り土をし、かさ上げた大地の上に住宅を建てるという計画の元、工事が少しずつ進められている。

この「関上の記憶」のボランティアの人は、「工事が進めば進むほど、関上の記憶は薄れていく、この場所も移動しなければならなくなる。住んでいたみんなの記憶が残っているうちに、当時の町の様子を形に残しておきたい。」「グーグルマップの上空からの写真はありますが…。家の周りに何があったかは、その人の記憶が頼りです。各家庭の写真もなくなりましたから…」

そんな話を聞いているうちに、自分の生まれた町は、既に分からなくなっているのに気付いた。都会に住む宿命か…。

「小名浜魚港 & 塩谷崎灯台」 福島県いわき市

いわき市小名浜魚港は、大きく立派な漁港である。漁協の建物も大きくさらに水産加工工場も建設中。大型漁船も係留している中、写真を撮りながら歩いていると、漁師たちが談笑していた。「立派な漁港ですね」と挨拶したら、「立派なのは建物だけ、漁船があっても水揚げできない。ここで水揚げすると福島産になる。放射能の風評がね～」「だから他所に持っていくのだよ。」「船が入って来ないので、関連会社は倒産。漁師相手の飲み屋、風俗業は閉店、歯車がくるってしまったよ。」



福島県小名浜市は津波の被害だけでなく、原発事故の放射能の影響を受けている。津波よりも酷い放射能、収束はできるのか？

福島県小名浜市は津波の被害だけでなく、原発事故の放射能の影響を受けている。津波よりも酷い放射能、収束はできるのか？



(7) 2014.8.15

小名浜港より少し離れた岬に、塩谷崎灯台がある。映画「悲しみも喜びも幾年月」の舞台になった灯台だ。この灯台も罹災し、灯台守の住宅は壊れてしまい、灯台も損傷を受けた。3年後の今年2014年5月にやっと一般公開された。

灯台から見る海岸地域に住宅はない、津波で流され、やはりここも更地である。護岸工事は進むが、住宅の再建は程遠い！



「いわき駅前アクション」

2014.6.27 JRいわき駅

毎週金曜日の午後6時～6時半まで、JRいわき駅2階広場で、“脱原発＝私たちの命を守る”の一点だけで、集う市民のための活動が開催されている。

丁度この日も、金曜日。2012年の秋から、駅前で行われているそうで、一人二人と活動の輪を広げている。偶然出会った集會に私も参加した。



SUNAK星人 SOS SOS! 「明日は我が身」

1年ぶりの東日本大震災の被災地訪問で感じたのは、いまだに住む仮設住宅の住人達、年齢的にも経済的にも移動が難しく、かと言って、先の見えにくい仮設住宅での生活。

永久に元の生活に戻れない環境の中、諦めと寿命の根競べが交差する。原発事故の被害者はさらに過酷な運命が強られる。

都会の人たちよ！震災当時の計画停電や照明の節電は、何処へいった。被災者以外は、忘れ去ろうとしているこの現実。福島原発がほぼ永久に終息できないのに、押し進める原発再稼働。

強靱な国土造りの公共事業、東京五輪の建設受注は、確実に被災地の復興を遅らせている。何を優先するのかわからない政治。

それでも、「人からコンクリート」を選んだ国民は黙っている。自分さえが良ければ良いのだと...

「今日は人の身、明日は我が身」こんな言わざ、あったけっ？！ SUNAK星人

SUNAK FILM :http://www.geocities.jp/sunak_film Meil:sunak_film@hotmail.co.jp